

# ロケット・ストーブから環境問題を考える

茂呂 良彦

焚き口から積極的に空気を取り入れ、燃焼塔を保温して熱効率を上げ、排気を積極的に暖房に活用しようというストーブがあるという。燃焼時にゴーゴーという空気を取り入れる音がすることから、ロケット・ストーブと言うらしい。ストーブは、英語的にはクッカーに近い意味になるので、ロケット・ヒーターとする方が本来の意味に近いかもしれない。

近年の石油の値上げに伴って、薪ストーブを設置する所が増えている。木材を燃やすことは、二酸化炭素を発生させるといった罪悪感が伴いそうだが、よくよく考えれば、灯油などの化石燃料であっても二酸化炭素を発生させるという結果は同じである。さらに、化石燃料が地中で作られるまでの時間をあわせると、完全燃焼させれば、木材を燃料として使うこともあながち間違いではないと考えられる。

このように、環境問題的な側面を考えると、様々なスケールを考慮に入れて、トータルで考えていく必要がある。

たとえば、廃油石けんは、廃油を原材料にすることで環境に良さそうに見えるが、廃油を石けんに加工作る段階で、温度を上げるために多量の燃料と酸素を消費する。トータルでは不合格と言えそうである。再生紙は、コスト的には高いが、新しい木材を生産するための時間を考えあわせれば、何とか合格と言えそうである。ペットボトルは、どうやら利権の温床のようなので、不合格であろう。

一昨年、実家にデッキテラスを作成した。屋根をつけたり、冬の暖房を導入したりすることを考えている。ロケット・ストーブも選択肢に入っている。環境問題的な側面も考えながら、選択肢を検討したい。